

保健室からこんにちは！

2021. 2. 2 No. 8

開成中等教育学校 保健室

新型コロナウイルス感染症の流行はいつまで続くかわからないけれど…

一人一人の意識を変えることが社会を救う

～新型コロナウイルス感染症対策分科会 尾身会長×櫻井翔キャスター単独インタビューより～

2021. 1. 18 ニュース ZERO

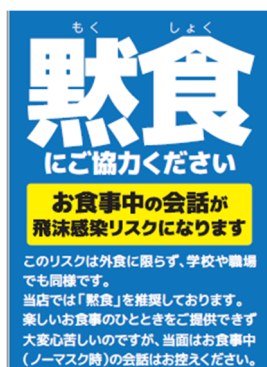
櫻井「2020年4月の時には、接触8割減のようなわかりやすいメッセージがありましたが、こうしたわかりやすいメッセージは今は伝えないのですか？」

尾身会長「ぜひ5つのポイントを。1つはもうすでに医療崩壊というのが始まってしまっていて、若い人だって病気に、盲腸になったりけがをする。普通だったらすぐに緊急外来に行けるが、そういうことがもうすでにできにくくなっている。2番目はウイルスの特徴で、感染しても特に若い人はほとんど症状がなかったり軽症なんです。これが特徴なんです。感染が少し時間差があって高齢施設、病院、家庭にいった感染が伝播し、それによって重症化が起き、医療の崩壊につながっているという一面が間違いなくある。3番目は若い人は高齢者に比べて感染しても重症化しないのは明らか。重症化する人は少ないが後遺症が残る人は結構います。脱毛したり、神経症状、これがかなり続くということがあるので、それに気をつけて、そういうこともあるんだと。4番目ですけど、いまでも1年近くの間、コロナのために経済も大変疲弊しています。職を失う人、特に非常勤、非正規の人、ますます若い人の仕事のチャンスが減ってくるということもある。最後、一番大事なことですけど、今回8割削減ということをしなくても、むしろフォーカスをおいてやった理由、最後のポイントは、何度も言っている「3密を避ける」こと。若い人のちょっとしたことで日本の医療を救える一番の立役者になれる、高齢者の命と日本の医療、日本の社会を救えるんだというメッセージが若い人の間で伝わってくれとありがたい。」(中略)

櫻井「今の先生の話では、一人一人の意識が変わることでこの先の数字が変わっていくのは確かなことですよね。」

尾身会長「私どもは感染症対策に長く携わってきて、今言ったようなリスクが高いところを中心に防ぐ。避けるということができれば間違いなく下がります。かなり急速に下がります。ここは我々市民の意識と行動にかかっているんです。そのことは是非お伝えできればと思っています。」

- ①換気の悪い
密閉空間
- ②多数が集まる
密集場所
- ③間近で会話や
発声をする
密接場面



SNSで拡散され、今や全国の飲食店に広がっているこのポスター、見たことがありますか？「食事中の会話で生じる飛沫が感染のリスクになること」を防ぐために生まれた「黙食(もくしょく)」ということば。これは、飲食店だけでなく、学校も同様です。飲食をする場面では会話を控え、会話をする時にはマスクをつけましょう。